

「一流になりなさい。それには、一流だと思い込むことだ」という本からです
サムシンググレートの意味だ。

福岡で知らない人のいない銘菓「鶴の子」。マシュマロで餡を包むという斬新な発想は、初代が 100 年以上前に考えだしたものです。いまでも石村萬盛堂の看板です。

現社長の石村僖吾社長は三代目。ホワイトデーを考えた人物として、有名です。ホワイトデーができたのは、1979 年のことでした。「バレンタインで義理チョコをいっぱいもらうのだけど、義理を返すきっかけが難しい。居心地が悪いものだと思っていたとき、百貨店から三月中旬に何か催事はないか？と聞かれたのです」最初からお返し催事を要請してきたではありません。たまたま、バレンタインの一カ月後に催事機会があつて実現したのです。なぜ、ホワイトデーか？もうおわかりでしょう。マシュマロ菓子が看板の石村萬盛堂が、企画したからです。そう、マシュマロは白い！からです。さまざまな素晴らしい発想を発揮して伸び、いまでは九州有数の和洋菓子企業になった石村萬盛堂の、百周年記念の会にゲスト講師として呼ばれたときのことで。石村僖吾社長の講演に大いに感銘を受けました。百年を迎えられた一番の理由を、「神仏を敬う、敬虔な心にある」と話されたのです。あらゆる運の元は、神仏を敬う敬虔さのなかに生まれるというのです。それは、神頼みの力ということではありません。敬虔さは、お客様に対する真摯さにつながる。それが、運をつくるのだ、と石村社長は語ります。

人事を尽くして天命を待つ、そんな言葉があります。お客様を敬い、常にお客様の声に真摯であろうと努力をすることが人事を尽くすということです。やがて下される天命は、悪いはずはないと思える。そこには、自信と謙譲の気持ちが生まれてきます。事業、商いの現場で、運としか思えない幸運にぶつかることがあります。運のよさ、その意味を船井先生に尋ねたときに、こう答えてくれました。「とことん考えて、天地自然の理に従って生きてると、運がついてくる。ツキのある人生になる。それは、サムシンググレートの意志なのだよ」石村萬盛堂の代名詞の一つともなっている、ホワイトデーも、百貨店からの依頼がもし七月とかであれば生まれていないでしょう。私たちはホワイトデーのない日本に生きていたはずですが。必然というツキが、世の中を動かしていきます。何かとても大きな意志が、世の進化のために、正しい生き方をしている人間に、運、ツキを分け与えているように感じます。

その意志ある存在をサムシンググレートと言います。神仏と言う人もいます。神仏を敬う。感謝するという念が、その人間を真摯な気持ちへと導くのでしょう。どんな出来事も、自分に何かを教えるために起こると考えれば感謝をしたくなるものだと、船井先生は繰り返し教えてくれました。嫌なことでも、「ありがとう」とその出来事に言えばよい。そして学ぶのです。その出来事は、サムシンググレートの意志で起きたのだから。船井先生の考え方は、とてもシンプルです。「悪口を言わない。汚い言葉を使わない。ツキの悪い人と付き合わない。それはサムシンググレート嫌うことだからだよ」正しい生き方。とても難しく感じます。「いやいや簡単だよ。反良心行為をしない。ツキを大切する。そのために感謝をする。何にでもね」反良心行為？「よいと思ったことはすぐにやる。悪いと思ったことはすぐやめる。それでいいんだ」そして、物事にこだわらず、調和を第一に考えればいいんだよ。自分にもできそうに思えます。しかし時として、あれっ！いけないな、と思うこともあります。神仏を敬う敬虔な心。それは、誰でももっています。敬うとは、感謝をすることでしょう。嫌なことにも、困ったことにも感謝する、「ありがとう」と言ってみる。口に出したほうが確かによいようです。サムシンググレートがそこにあるなら、ツキをつける第一の方法としては、とても簡単なことです。思い切ってやってみると、とても気持ちのよいものです。気持ちがよい。その気分が、ツキを招くきっかけなのかもしれません。

反良心行為とは何ですか？

()